

# 「『緑の島四国の森林共生を考える』車座サミットin栲原」宣言

平成21年10月26日

1. 本日、雲の上のまち栲原町において林業と木材産業の再生に取り組む各方面のリーダーが集まり、「『緑の島四国の森林共生を考える』車座サミットin栲原」を開催し、以下のとおり意思の疎通を図りました。
  - ・ 全国屈指の森林面積率を誇る四国の森林は、多面的機能を有し、地域住民の生活に欠かすことのできない「緑の社会資本」です。一方、国産材の需要の減少、木材価格の下落による林業採算性の悪化等により、適切な森林整備が行われない状況となっています。
  - ・ 森林資源の循環利用を推進するためには、木材利用の推進、木質バイオマス事業をはじめとした関連産業の育成振興等が必要であり、これにより地域経済の活性化や雇用創出を図ることが重要です。
2. こうした認識に立ち、林業関係団体、産業界、行政等の関係者は、以下の取組に努めることを確認しました。
  - ・ 木材の住宅等への販路拡大を推進するとともに、木材の新たな利用方法の開発などにより需要拡大を図ります。また、森林資源を循環利用する林業経営を目指した森林整備を推進します。
  - ・ 木質バイオマス利用の拡大に向けて、木屑や間伐による林地残材等の未利用資源の有効活用の促進、新たな技術開発や製品の販路開拓に取り組めます。
  - ・ 森林・林業への理解を深め、多様で健全な森林整備を進めるために、CO<sub>2</sub>森林吸収認証制度など地球温暖化対策に向けた森林の役割を明確にし、広く住民参加の意識を高める普及啓発、ボランティアの育成や交流、森林環境教育活動等に取り組めます。
3. 本サミットに参加した私たちは、森林資源を活かしたビジネスを創出することにより森林の価値を高め、林業の再生と森林環境の保全に繋げるために、知恵を出し合い、森林の重要性をアピールし、地域社会に広く浸透させることを、ここに宣言します。